

田植え編

〔今回のポイント〕

育苗日数1か月以内の健苗を植え、初期分けつを早期確保！

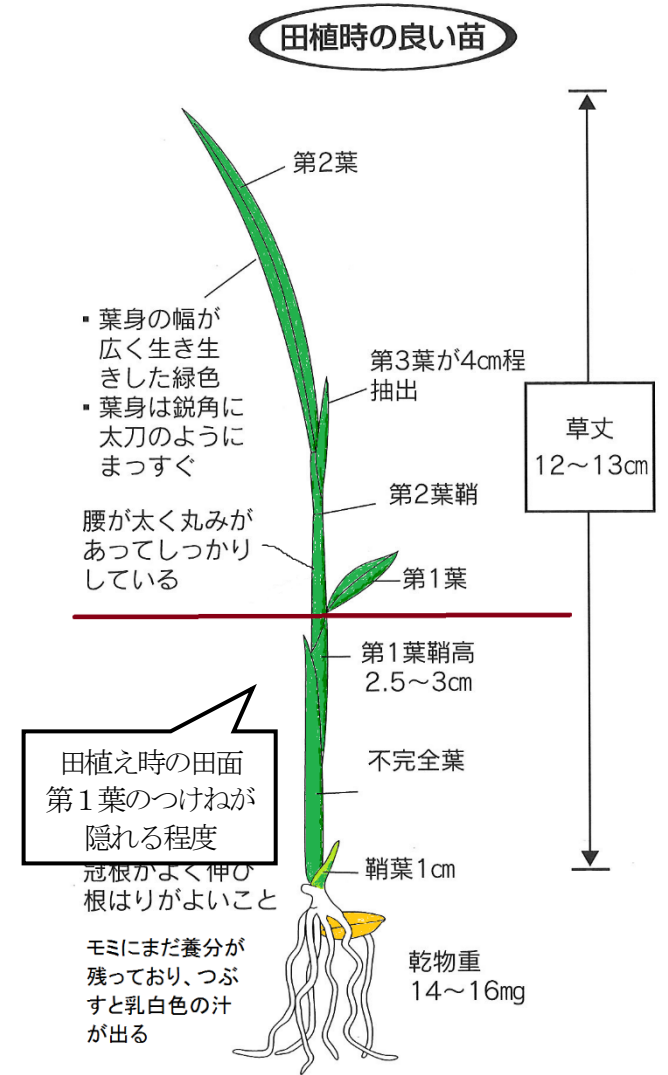
1 苗の準備

育苗日数が長く、葉令が進んだ老化苗を田植えすると、活着(自根で養分や水分の吸収が可能)が遅れ、穂となる分けつ(有効茎)の数が少なくなります。一方、遅く発生する分けつが多くなり、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。

活着を早くするためには、種もみの中に養分の残っている状態、葉数(葉齢)が3枚(3葉期)に達する前に田植えをすることが大切です。

育苗日数1か月(20~30日)以内が田植えに適した苗です。

田植えの4~5日前からは夜間もハウス側面を開放し、苗を外気に慣らしてください(順化)。



2 代かき作業について【重要】

(1) 環境に配慮した「能登米」生産において濁水の河川流入を防止する観点から、

浅水での代かき作業を実施し、代かき濁水は排水しない。また、田植え前の「強制落水」は避けてください。

(2) 作業は田植え日や除草剤散布日を考えて計画的に実施してください。

3 田植え作業について

(1) 時期：登熟期の高温を避けるため5月から行う。低温、強風の日を避ける。

(2) 植付本数：1株当たり3~4本の細植えとする。

(3) 栽植密度：坪当たり60株程度とし、**中山間地・低地力・遅植えの場合は、未熟粒発生防止のため疎植は避ける。**

(4) 植付深度：**2~3cm(第1葉が見える程度)の浅植えとする(上図)。**深く植えると早期の分けつが確保できません。

田植え前に、田植機の栽植密度、植付け深度の設定を確認してください。

(5) 水管理：浅水管理を基本とし、低温が予測される日や風が強い日は一時的に深水管理とします。

(天候回復後は速やかに浅水管理に戻してください)。

4 基肥施用について(能登米コシヒカリは化学合成窒素成分量5.6kg/10a以下で生産)

基肥一発肥料は代かき直前(全層施肥)または、田植同時(側条施肥)で施用してください。

全層施肥する際には、代かきから田植えまでを5日以上開けないようにしてください。

(日数が開くと、穂肥の溶出パターンと稲の生育にズレが生じるため、倒伏や品質低下を招く原因になります)。

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		能登米コシヒカリ	ゆめみづほ等(早生)
基肥一発	BB有機入り能登コシ一発	20~ <u>上限30</u>	—
	BBけい酸パワー・コシ一発くん	40~ <u>上限55</u>	—
	BB里山の香	45~ <u>上限53</u>	—
	BBスリム早生一発くん	—	35~40
分施体系	BB高度056号	20~ <u>上限28</u>	30~40

※ 施用量は目安です。地力に応じて加減して下さい。

※ コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した能登米栽培のため、**施用量の上限を厳守**してください。

※ BBスリム早生一発くんは、リン酸を含む土づくり資材(PK けいさん、大地パワー等)と併用してください。

5 病害虫防除・除草剤の使用について

(1) 苗箱施薬剤の散布について

石川県病害虫発生予察情報ではイネミズゾウムシ、イネドロオウムシの発生が「やや多」と予測されています。初期害虫やいもち病の常発地では必ず防除を実施してください。

苗箱施薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
Dr. オリゼフェルテラ粒剤 (2成分)	田植3日前～ 田植当日	50g/箱	いもち病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネドロオウムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、イネツトムシ

- ※ JAからの購入苗には苗箱施薬剤が散布済みの苗があります。重複散布しないよう注意してください。
- ※ 葉が濡れていない状態で均一に散布し、葉に付いた薬剤は払い落してください。

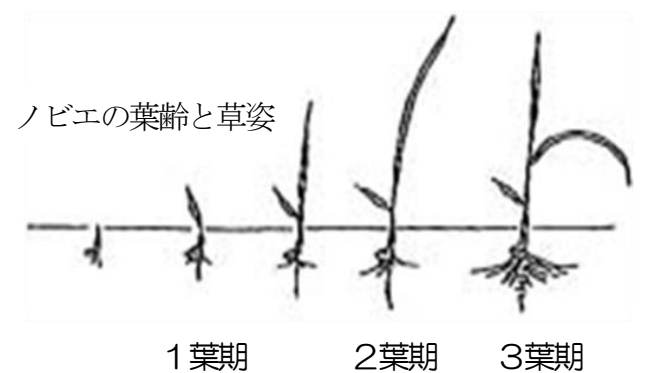
(2) 除草剤の使用について

雑草は代かき直後から発生し始めます。除草剤の使用時期を守り、ノビエの適用葉齢以内に散布して下さい。

(参考)代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉期	1.5 葉期	2.0 葉期	2.5 葉期	3.0 葉期
代かき後の日数 (平年の場合)	羽咋	7日	12日	16日	20日	23日
	志賀	8日	13日	17日	21日	25日
	七尾	8日	13日	17日	20日	24日

※5月1日に代かきを行なった場合を平年の有効積算温度により試算



体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
初期剤	1成分 マーシット1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ1葉期
	ベクサーフロアブル	500mL	田植同時～ノビエ発生始期

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
中期剤	3成分 マメットSM1キロ粒剤	1kg	田植後15～30日 (ノビエ3.5葉期)

残草・後発生があった場合

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期		
初中期一発剤	2成分 ガンガン1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期		
	3成分	カチボシ1キロ粒剤51	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期	
		コメット	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
			顆粒	80g	田植同時～ノビエ2.5葉期
	パッチリ	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期	
		フロアブル	500mL	田植同時～ノビエ2.5葉期	
		ジャンボ	400g	田植直後～ノビエ2.5葉期	
サラブレッドKAI1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期			

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
後期剤	1成分 ※多年生雑草が残った場合 アトトリ1キロ粒剤	1kg	田植後20日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期
	※ノビエのみ残った場合 ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ノビエ4葉期
	※広葉・多年生雑草が残った場合 バサグラン粒剤	3～4kg	田植後15日～55日 (落水散布)

残草・後発生がある場合

能登米コシヒカリに使用できる除草剤は限られています。この情報に記載の剤は使用可能。他に使用できる剤は営農てびき等を確認してください。「能登米コシヒカリ」以外は除草剤の指定はありません。

除草剤を田植同時散布した場合、入水が遅れ気味になっています。田植後は、直ちにゆるやかに入水し、湛水状態(4～5cm)を保ちましょう。

除草剤の有効成分は、一旦水中に溶解した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。安定した効果を得るために、散布後3～4日間(処理層が形成・安定する時間)は湛水状態とし、散布後7日間は落水やかけ流しはしないでください。

水持ちが悪いほ場でやむを得ず入水する場合(散布後3～4日以降)は静かに(処理層を壊さないように)行ってください。

6 補植作業には注意を

20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。隣接株が大きく育ち減収にはつながりません(補償作用)。補植する場合は、除草剤を散布する前に実施して下さい(散布後では、補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります)。補植苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業後は速やかにほ場から撤去してください。

安全・安心な環境にやさしい能登のこめづくりルール

- 安全・安心な米を提供するため、農薬はラベルに記載してある使用方法を厳守してください。
- 育苗ハウス内の後作に野菜を栽培する場合は、ハウス内で水稲用農薬を散布しないでください。(農薬が残留すると野菜の出荷・販売は出来ません)